



「未来は、みんなで作るもの」

校長 三田 和弘

新たな年の幕があがったと思った矢先、1月1日の夕刻に発生した「令和6年能登半島地震」は、大きな衝撃でした。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

最大震度7の揺れを観測し、建物の倒壊や津波の被害、それに地盤の隆起も確認されており、発生して3週間が経ちますが、全容の把握もまだまだまらない状況なのだと感じます。それでも被災者たちが、規律を守り、少しでも日常を取り戻そうと前を向いている姿には、感銘を受けます。

今回の地震は、改めて地震が、いつ・どこで起きるか、正確には分からないことや、「もっと備えをしておくべきだった」という声が数多く聞かれているようです。今回の地震を”自分ごと”としてとらえ、学校でも備えを今一度、確認することが必要だと感じました。

本校では、災害時の避難先は「月ヶ瀬体育館」となっています。しかし、本校を急傾斜地が取り囲み、災害発生時には様々な選択と判断を強いられると感じます。

1月19日(金)には、伊豆市役所の危機管理課と天城支所の協力を得て、起震車による地震体験や月ヶ瀬体育館への移動訓練を行いました。実際に行うと分かることもたくさんあり、生徒の訓練だけでなく、保護者の皆様との連絡や地域の皆様との連携も必要になると実感しました。

大切なお子様の命を預かるものとして、より一層、安心・安全な学校となるよう努めていく必要があると感じる年明けとなりました。

さて、2024年がスタートしました。

今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」です。干支は60年で一巡します。ちなみに60年前は1回目の東京オリンピックが開催され、高度経済成長真っ只中だったようです。

甲辰の年は、新たなことに挑戦し、成功を収めることができる年との記事がありました。2024年は、これまでのコツコツと蓄えられた学びが芽を出し、活力に満ちた草木のように伸びて、努力が花を咲かせる年となるようにしたいと思います。

1月1日付の新聞に次のような言葉がありました。多くのイラストが描かれた広告で、新聞各紙に掲載されたようです。「トヨタタイムズ」の広告の中のコピーです。元気をもらいましたので紹介します。詳細は、HPを閲覧してください(https://toyotatimes.jp/toyota_news/)。



「未来は、みんなで作るもの。」

進むべき未来はこっちだという人がいる。でもきっと未来に方向なんてない。それはまっさらな地図のようなもの。どっちに向かってもいいはずだ。ひとりひとりが進んだ方向に、それぞれの道とそれぞれの世界ができていく。だから、全方位で考えよう。やれることは全部やろう。可能性はたくさんある方が、おもしろいから。さあ、みんなで作ろう。あなたが進む方が未来だ。

新たな1年のスタートに際し、新たな決意をもって進んでいきたいと思っております。

本年も、学校教育目標「自ら学び心豊かにたくましく生きる生徒」の育成を目指し、教職員一同力を合わせて取り組んでまいります。

引き続き、保護者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

3年生・面接練習! 頑張れ・受験生!



年が明け、3年生にとっては中学校生活最大の試練である高校入試が近づいてきました。家族と相談し、担任との面談を重ね、たくさん悩み受験校が決まったと思います。ここから3年生は、不安な日々が続きます。それ以上に「受験生の親」保護者のみなさまも心配で仕方ないと思います。残りの時間を、「我が子」と一緒に頑張っていきましょう。

3年生は登校後、朝の時間を上手に使いながら黙々と勉強している姿が見られます。分からない問いは、そのままにせず教科担任に質問するよう、さらに促していきたいと思います。

入試に向けて、3年生の面接練習が22日(月)、23日(火)に行われました。天城在住の退職された4名の元校長先生を招き、教員が面接官役となり、集団面接や個人面接を実際に体験しました。何度も面接練習を行ってきた3年生、本番さながらの緊張した雰囲気の中、質問に誠実に答えようとする子どもたちの姿が印象的でした。天城中で学んだことや3年間で頑張ってきたこと、自分の考えや将来の夢などを、はきはきと答えられるよう、さらに練習を積み頑張ってもらいたいと思います。

私立高校入試は2月6日・7日、公立高校入試は3月5日・6日に行われます。自信をもって本番に臨んでほしいと思います。

起震車体験・月ヶ瀬体育館への避難

年明け早々の1月1日に、令和6年能登半島地震が発生いたしました。被災されたすべての方々にお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになった方々にご冥福を心からお祈り申し上げます。

19日(金)避難訓練を行いました。今回の訓練は、伊豆市危機管理課の協力で、全校生徒は起震車に乗りこれまでに起きた地震の揺れを体感しました。大きな悲鳴が起こり、縦揺れや横揺れの違いや、揺れている時間の違いなど、地震の恐ろしさを感じていました。

今回の能登半島地震でも、避難の仕方について賛否がありました。どれだけ冷静になり臨機応変の判断がとれるのか必要不可欠であります。地震だけに限らず、風水被害も大いに考えられ、学校でも「もし、このような状況になったら」といくつか想定をしています。

- ・子どもたちを学校に待機させ保護者の方への引き渡し。
- ・学校が孤立した場合、非常食は何日分あるのか。
- ・指定避難場所となっている月ヶ瀬体育館への移動。
- ・学校から、狩野ドーム(グラウンド)まで歩いての避難。
- ・その他

今回の避難訓練は、地震が起きたときに学校のまわりはどれだけの崩落が想定されるかハザードマップを見ながら、指定避難場所となっている月ヶ瀬体育館へ全校生徒が歩いて避難をしました。月ヶ瀬体育館では、天城支所の職員より体育館での避難生活等の説明があり、子どもたちは、天城学習で学んだ「防災学習」を振り返りながら聞き入っていました。

各ご家庭でも今一度、「もし、このような状況になったら」我が家の「対応」を話題にしていだければと思います。

